

2. 内水対策に関する現状と課題

2.1 洪水の概要

(1) これまでの浸水被害

庄司川を含む遠賀川中下流域一帯は、古くから農耕文化が開けた地域で、低地部に居住地が発達したこと及び鉱害による地盤沈下が発生したことから、内水被害が発生しやすい地域特性である。昭和54年6月、昭和55年8月洪水では大きな内水被害が発生し、平成6年3月に庄司川排水機場を設置するなど、内水対策を進めてきた。

しかしながら、それ以降も内水被害が頻発しており、特に平成15年7月洪水では床上浸水48戸、床下浸水116戸と大きな被害が発生している。

表 2.1.1 平成元年以降の庄司川での浸水被害状況

洪水年月日	洪水要因	浸水面積 (ha)	浸水家屋 (戸)		継続 時間 (hr)	24時間 雨量 (mm/24hr)	時間 最大 (mm/hr)
			床上	床下			
平成11年6月28日～29日	梅雨前線	618.4	2	44	6	180	63
平成13年6月19日～20日	梅雨前線	5.3	0	6	11	231	39
平成15年7月18日～19日	梅雨前線	58.8	48	116	8	299	75
平成21年7月24日～26日	梅雨前線	80.6	10	61	14	297	83
平成22年7月12日～14日	梅雨前線	59.8	5	20	13	260	58
平成30年7月5日～7日	梅雨前線	111.0	152	265	25	349	41

出典) 水害統計及び福岡県浸水被災調査資料 (H21, H22洪水) より

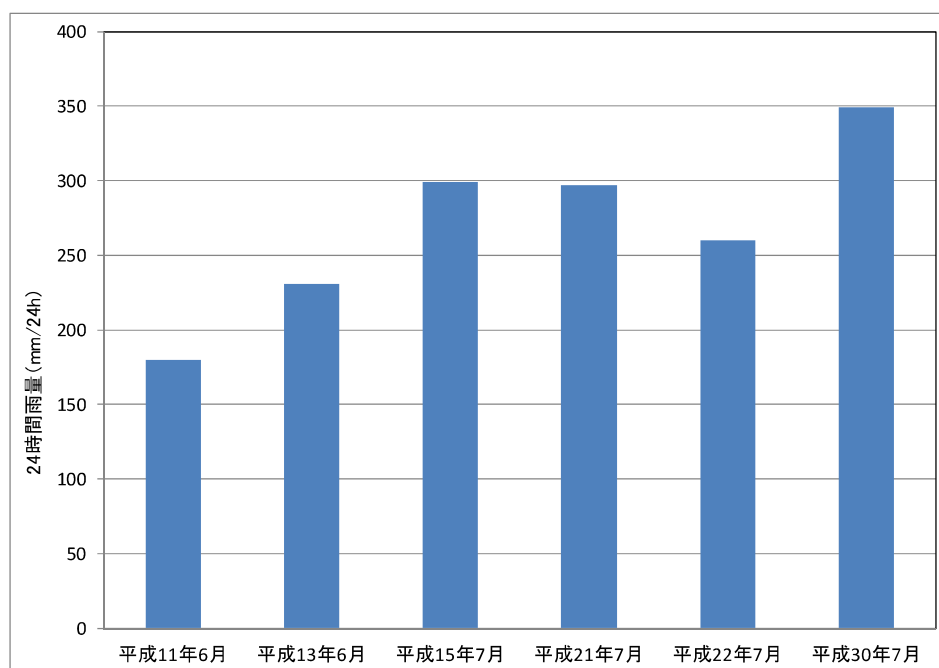


図 2.1.1 各洪水の24時間雨量 (川島(国)雨量観測所)

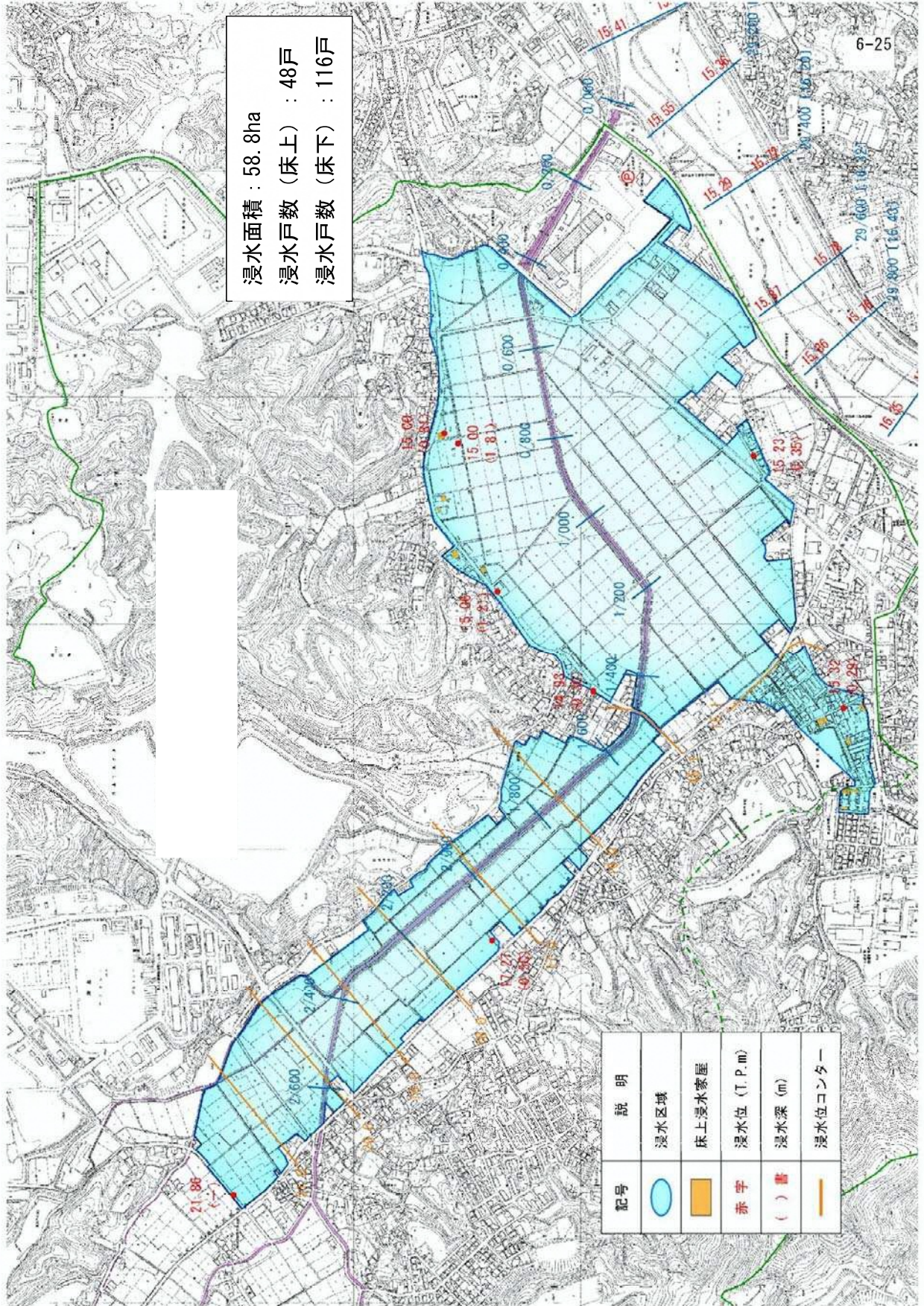


図 2.1.2(1) 洪水痕跡図 (H15.7洪水)

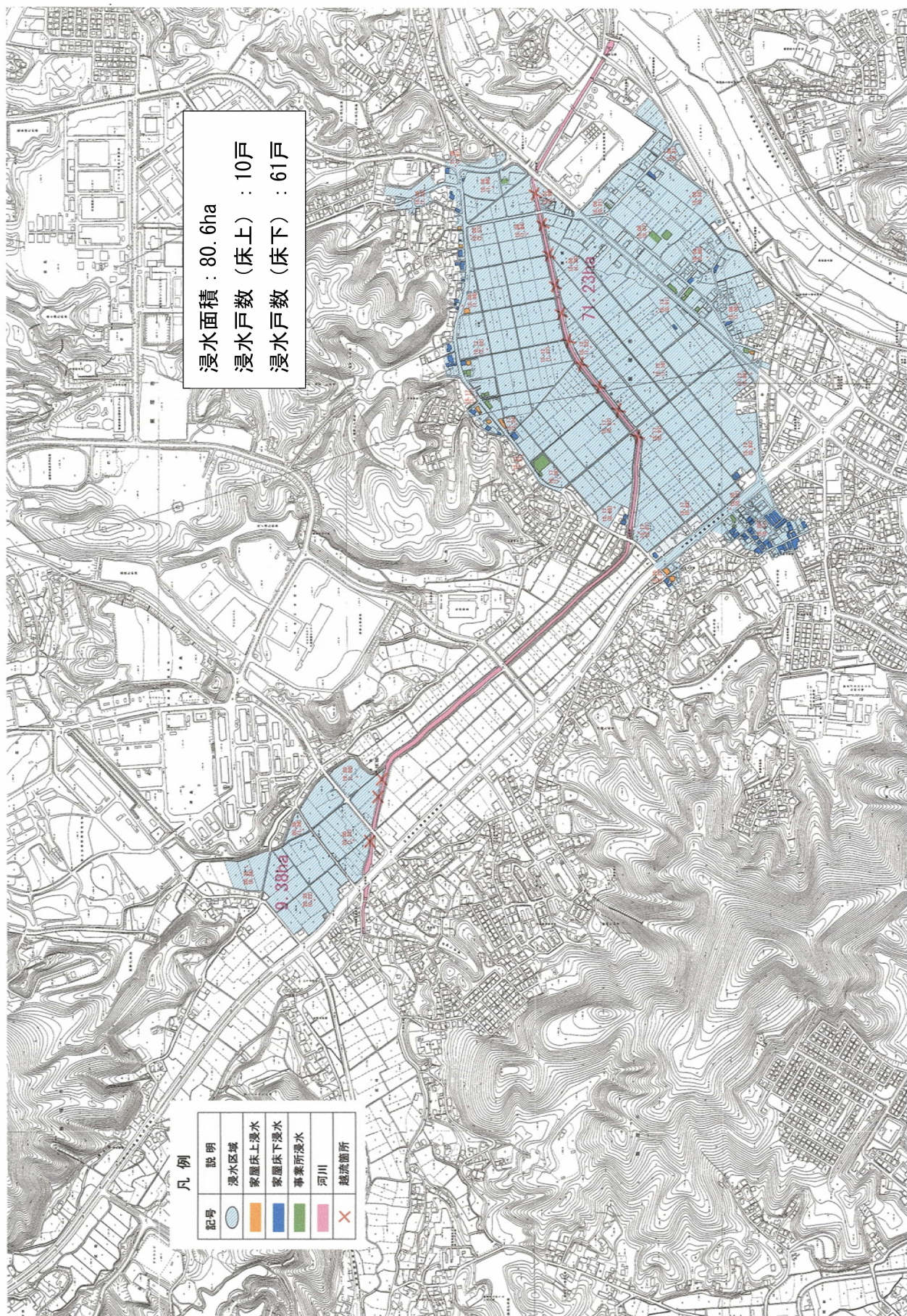


図 2.1.2(2) 洪水痕跡図 (H21.7洪水)